

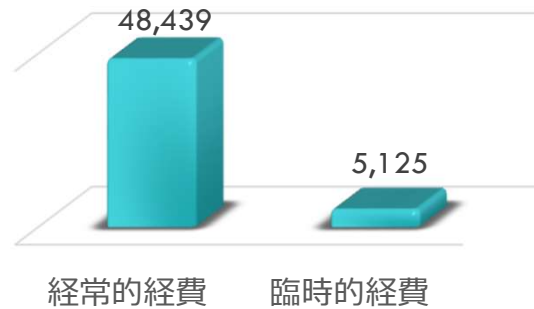
政策3 誰もがいつまでも安心して暮らせるまち（健康・福祉）

施策06 地域に密着した医療サービスの提供

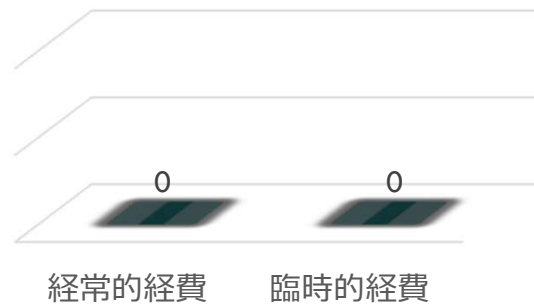
施策の方向性・目標（総合計画より）

地域住民が安心して介護・保険・予防等と連携した良質な医療を受けられることができ、住み慣れた地域で自分らしい日常生活を送ることができるまちを目指します。

経費の内訳（万円）



特定財源の活用（万円）



※特別会計は除く

現状と解決すべき課題

【在宅医療提供体制の構築】

・高齢化が進み、通院が困難になるケースが増えることが予測されます。また、地域包括ケア推進の観点からも、在宅医療の重要性が高まってきており、現状ではまだまだ不十分である在宅医療提供体制の構築が必要です。

【救急医療体制の整備】

・積極的な救急受入れに努めてはいるものの、休日夜間には検査ができない等の理由により対応できていない例も一定数あります。地域住民がより安心して健康な生活を送るため、必要ときに適切な医療を受けられるよう、休日夜間の救急医療体制の充実が必要です。

【患者数の減少】

・人口の減少や市立3病院の診療科が限定されていることなどにより、患者数（入院、外来患者数）は減少しています。

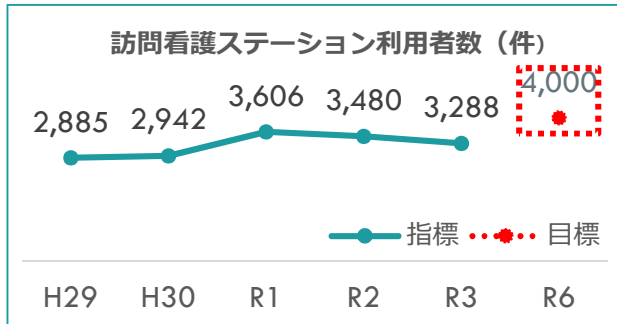
【医療従事者の人材確保】

・平成16年度開始の医師研修制度により、大学医局からの派遣に依存していた自治体病院の医師数が減少しています。また、医師の専門性の高度化等により、専門外の疾患対応や救急受入れも困難となっています。

【病院事業の方向性の検討・決定】

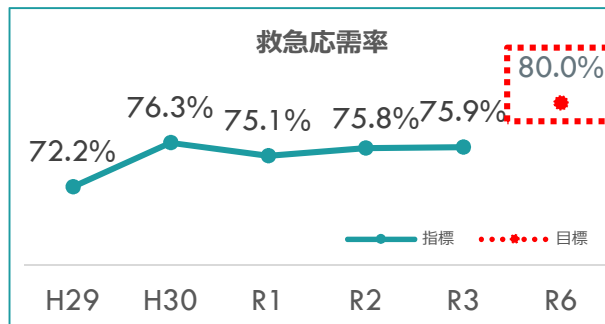
・現状を十分に把握・検証した上で、備前市の医療・介護サービスの位置づけや役割を整理し、病院事業の今後の方向性について検討・決定が必要です。

成果指標（達成したい目標）



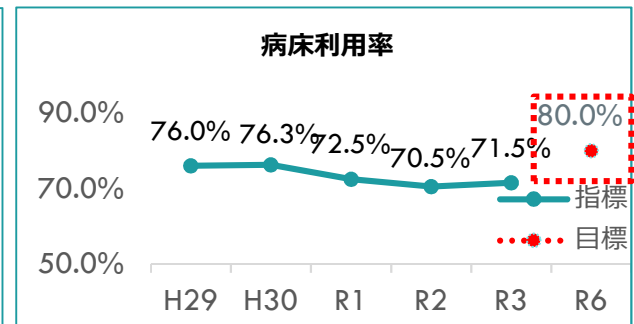
成果指標の分析

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、減少傾向となっている。R4年度についても影響はあると思われるが、ひきつづき丁寧な看護を心がける。



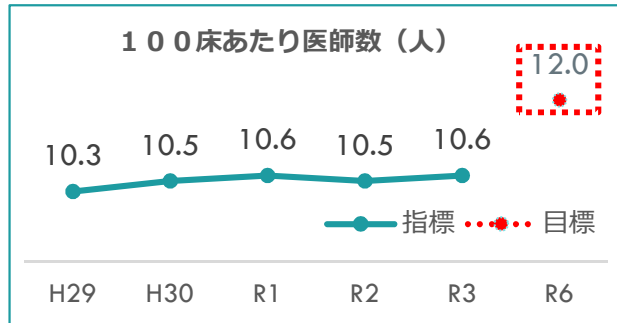
成果指標の分析

微増はあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響があり、発熱患者さんの受入れが困難であったりと、現状での改善は難しいと考えられるが、可能な限り対応していく。



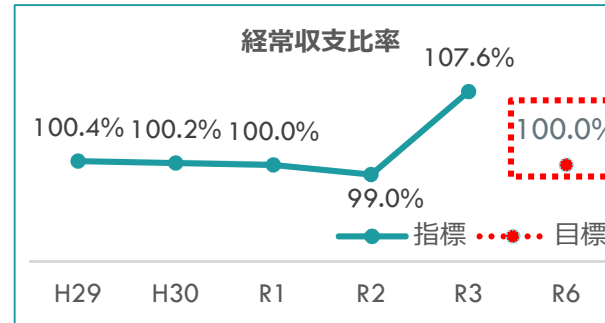
成果指標の分析

微増はあったものの、感染病床の確保等で休床状態の病床があるため、現状での改善は見込めない。



成果指標の分析

医師確保については、大学病院や、関連病院に依頼を続けているが、困難な状況は変わらない。



成果指標の分析

新型コロナウイルス感染症関連の補助金等で経常収支比率は改善したが、補助金がなくなった場合を考え、更なる経営改善に取り組んでいく必要がある。

指標の説明

- 【救急応需率】 救急受入数÷救急受入依頼数（市立3病院）
- 【病床利用率】 入院患者延数÷病床延数（市立3病院）
- 【100床あたり医師数】 医師常勤換算数÷病床数（市立3病院）
- 【経常収支比率】 経常収益÷経常費用（備前市病院事業会計）

政策3 誰もがいつまでも安心して暮らせるまち（健康・福祉）

施策06 地域に密着した医療サービスの提供

課題に対する主な取組

課題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行（万円）	アウトプット （どのくらいの事業や取組を行ったか）	アウトカム （どれだけの成果が得られたか）
在宅医療提供体制の構築	在宅医療の実施	訪問看護、訪問診療、訪問リハビリ	訪問事業費用 3,152万円	訪問看護 242日	訪問看護 3,288件
救急医療体制の整備	医師配置	3病院間で当直医の診療科の周知	-	当直業務365日	救急搬送受入件数864件 R2年度比 +101件
患者数の減少	地域連携の推進	地域の医療機関や介護事業所等との連携	-	地域連携を通しての紹介患者の受入れや、 介護事業所の配置医師等連携強化	照会率 13.7% R2年度比 +1.5%
医療従事者の人材確保	学生等の実習受入れ	実習生や研修医の受入れ	-	受入依頼 2人×3期間	受入率 100%
病院事業の方向性の検討・決定	3病院間での協力や連携	3病院間で感染症対策のための人材派遣の実施	人件費 141万円	看護師の派遣 2名	派遣延日数 124日

施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 （課題解決状況）	令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けることとなった。訪問看護ステーションについては、コロナ感染症の自宅療養等が増加して、利用者数が減少したものの、救急応需率、病床利用率等は少しずつ上昇している。経常収支は、新型コロナウイルス感染症の対応に取り組むことにより、関連の補助金を受けることで、大きく向上した。
	備前病院事務長 藤澤 昌紀	【翌年度の取組目標】	効率的な病床利用を目指して、院内の多職種や、他病院、診療所、高齢者施設等との連携を推進していくとともに、在宅療養の支援にも力を入れる。 地域医療を担う人材を確保するため、引き続き大学医局等に医師派遣を依頼する。 また、新型コロナウイルス感染症終息後も見据え、持続可能な地域医療提供体制を確保するための計画として、公立病院経営強化プランの策定に取り組む。
二次評価者	役職	病院総括事務長	令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、いまだに終息が見込めない状況が続いており、発熱外来や、ワクチン接種などの感染症対応を継続しております。同時に、新型コロナウイルス感染症終息後を見据え、救急医療、在宅医療などの充実を図り、地域を支える医療機関として、安全で安心な医療の提供、持続可能な地域医療提供体制の確保に努めてまいります。
	氏名	尾崎 嘉代	